



おろくくと取土一草

不^レ主^レや^レ續^レ桶^レま^レひ^レれ^レる^レ泉^レ小^レて

子^レり^レ送^レ貨^レ往^レ返^レ門^レの^レぼ^レり

双^レ見^レる^レ獨^レり^レむ^レむ^レ息^レり^レみ

毛^レの^レ生^レる^レ是^レ日^レに^レ于^レ梅^レ雨^レより



京
生田

并^レ庄
寒玉

家ノ歌ハ以テ之ハと被ニ入ル多ク返ス

濱ノ繞リ揚ルマリ来テ市ニ立テ

落シ厨ノ乳ヲ母ノ子ノ乳ト均ク均ク

櫻ノ小ノ木ノ花ノまニまニまニまニまニまニまニまニ

独リ行ク祖ノ母ノまニまニまニまニまニまニまニまニ

舟水

全

快舟

次一

河州柏原

公ノ事ハ日ノ淡ク巧ク一ニ智ヲ直ニ始メくリ

年ノ越シ一ニ餅ヲ切リ子ハ春ノ茶ノの子

入リ漏レ妙ニまニまニまニまニまニまニまニ

父ノ親ハ質ハ乃ハ根ハ断ル乃ハ根ハ断ル

星ノ就ハ佛ノ晚ク乃ハ佛ノ晚ク

紫龍

紫龍

浅水

浅水

浅水

河州柏原

同カシラ

吉野

浅水

毎朝のげんれ家上ヤ子がくわくこ

吉野
梅巻

汁漬の酒り花込さうら花

此処や親の寐や問れ箱の金

似せ唄礼報謝り入親御れ茶

神佛のくは海の上の瓶つと

秘藏の茶入同のくわくこ

同
草軒

系細の茶と涼同の東海

同
梅之

心心のて親れ京茶と九寸心

予候と二月の末ハ一気同

同
山夕

師乞右のくわくこ

全

系業キヤウの涼スズシを初ハジメ夜ヨの魚イサ

同 和山

子コの露ツキ拂ハラせて花ハナ相アヒ撲ツ

ヨシノ 安休

子コのヲも男ヲ御ミ来キ小コ女メ多タ

ユメメ

能ノ儀ギれレ己ミの家ノ比ヒ士シのノとトこコ

同 珠數

娘メの己ミの業ノとトや系キ系キ

同 吞泰

多タのノやヤはハらラくク赤アカ背セのノ糸イト

新莊 来毛

丹ニのノ多タのノてテれレのノやヤ纏チのノ氣キ

同 夕栴

石イシのノ壘ツツも比ヒ花ハナとト糸イトのノ糸イト

ミカゲ

初ハジメの角ツノ豆マメ男ヲのノ土ツチ産ウマのノ

右ミダリ瑞ミツのノ親オヤのノ麻アサ息イのノ郭クワク公キミ

上市 市中軒

子コのノ山ヤマ乃ノ

賣ウりて棚カに置くウのウ婦メ

基キのウりて一二月宛ウのウ後ノ

河カに宛ウ藏ウのウ入ノ入ノ

雛ウ祭ウのウ信ウのウ娘メのウ子メ

世ウのウ時ウのウ具ウ具ウ（入ノ金メ）

河水

宇陀 豊林

柏原 吉廣

雨ウのウ氣ウのウ興ウのウ以ウのウんウや

全

金ウ備ウのウ氣ウのウ利ウのウ是ウのウ金ウのウ

諸ウのウ樂ウのウ所ウのウ振ウりウ

史ウのウ書ウのウ法ウのウ系ウのウ残ウる

同 列至

堂ウのウおウのウ毎ウのウ系ウのウりウのウ

玉龍橋をれ遠くさいに更にあ

能くさるもみぐれと賣るれば

姥ハシの鏡ハシはくくうとれ座後て

梅ハシと耳ハシをくそはみて乳の宿ヤシ

高有臣有人今日をきまふ塔小積

多武峯
月

葉ハシ月ハシり水ハシ仙ハシはくとうう紙

甲有乙有の月有が寶有りふせしな

同
八掛

ふが車有の鳴有は是有もみ旅有れ忙

同
籠衣

靴ハシにハシ押ハシくううハシ握ハシり

系ハシしハシにハシ平ハシ部ハシ倍ハシ松ハシりハシ古ハシ戦ハシ場ハシ

寶川 紙考しむ 教海妙く

曾根

秀俊

杖下 夢並にうつらば

新莊

一中

潮凝 谷月に 切初に月 摘

新庄

尾松

才自羅

庭角 けりしとて 八返たが 福縁

尾口

宵月

小物 小ぬく 味鳴と 小く 成る人 歌

新 髪川 けりしとて 天定小 付も けり

三ツ

万夢

潮凝 新食下 けりしとて 味は 多歌

三ツ

松夕

才自羅

江月 けりしとて 城の 景ん 寺色 紙

分利 けりしとて 吞喉 寺 景ん 寺色 紙

雲子 けりしとて 耳 けりしとて けりしとて 豆 厨 寺

私^右別りらひいふ浪代目分抄

ハシラ
鷺歎

意^右れ之^右を仁王乃らけし紙

全

針^右別りらひいふ浪代目分抄

橋^右塔^右りらひいふ浪代目分抄

物^右別りらひいふ浪代目分抄

吉野
柳水

海^右と云ふ是を天女此御持物

目
文荀子

麻^右酒^右りらひいふ浪代目分抄

新庄
女柳

心^右別りらひいふ浪代目分抄

野
吞鉛

早酒^右の洞後均ら海老尾

花^右別りらひいふ浪代目分抄

カシラ
牧舟

才百式

水はひて耳を紙縋成二日吟

會根 作鳥

浪物杖有りけりもの 魚寶

常門 一入

こころ木猿今日も饒ニ入チる寶

全

独り右のツノ多し並し一枕金

郡山 習寄

金いで月ハ西庭ニ草ハ三悔ニ高田 柳葉

高田 柳葉

菓子ゆくり因果が孫に遣ハりし

同 雪枝

表ハゆり江をて後ろは右金

同 梅軒

靈寶小可笑し物成る海より

曲川 雲甫

風外右杖ば後をそ界り代張りゆき

高田 風外

御後とて衣此小廻り後ろ

花教（印）は行處なる此福 不

御所
泉流

自慢（印）して夕（印）の義（印）成（印）は世（印）の如（印）

互（印）に食（印）前（印）の五器（印）のに（印）り（印）後（印）

月（印）月（印）より之捨（印）め（印）志（印）進（印）ぬ（印）福（印）道（印）

踏（印）上（印）部（印）へ（印）志（印）ら（印）ぬ（印）明（印）り（印）實（印）食（印）い（印）

何（印）も（印）も（印）取（印）喰（印）い（印）は（印）後（印）の（印）類（印）

取らざるお月也

志（印）津（印）釋（印）迦（印）より志（印）母（印）の（印）同（印）懐（印）より（印）

小母法
重次

人（印）齋（印）り（印）と（印）り（印）と（印）可（印）笑（印）ふ（印）神（印）あり（印）よ（印）

一笑

左（印）傳（印）り（印）槌（印）き（印）め（印）め（印）れ（印）白（印）う（印）は（印）る（印）

法隆寺
激舟

春（印）雨（印）り（印）紙（印）骨（印）籠（印）れ（印）し（印）り（印）持（印）

舟莊
寒玉

也酒正流と古し小多て強所正流くし

全

突正流て音故汚快正流は正流く正流ふ正流く正流ふ正流

同
竹子

養不交り正流く正流茶正流酒正流く正流資正流好正流

富傲

市右流殿正流女正流種正流下正流く正流礼正流う正流阿正流乳正流

全

古正流寺正流代正流寶正流物正流箱正流と正流出正流用正流テ正流

大正流酒正流代正流礼正流女正流り正流水正流を正流冷正流し正流物正流

終正流合正流多正流り正流大正流一正流上正流下正流流正流く正流資正流子正流

御所
正流

屯正流則正流く正流金正流仕正流代正流男正流流正流妙正流小正流流正流く正流

存正流分正流に正流至正流切正流流正流う正流乃正流理正流肌正流代正流金正流

比正流分正流に正流至正流切正流流正流う正流乃正流理正流肌正流代正流金正流

新
正流

亦正流流正流七正流

まじふのいとふ智下人等持し他

池内 無

欠病代末下男に添多くみ

大谷 扇翁

分教代下板より問全

全

志と多ふそ何れせいの崩し冷

呑何げ依懐れ珠散り装束衣

難波焼御好は牙掛並如し

打替れ囊紐よりくも珠れ 元

春月より見し夕御集り代去用下

高田 山竹

四季より見し中時分とよまのまニクハ志元より

月花代令しかせかあつ月小立ぬ

同 定經

湯長限法右様のそめ多ク二妻より

并松
快子

俵ヤクの役ははらへつゝまヤ妹小

車ウチのそめ多クまたヤ塔カキ後

安ウチのれ登切ヤり本ヤ夜ぬすウチ

赤ウチ井ウチよりウチの河ウチのそめ多クウチ出倉ウチ

笛堂
井石

酒ウチ酒利見杯ウチを一日ウチ采ウチうウチりウチい

高田

前仙

丹良ウチ造

瓢ウチ箆ウチに下ウチがウチ人ウチのウチ口ウチ切ウチ

御所

友立

赤ウチ井ウチの心ウチ被ウチるウチ白ウチ髪ウチにウチ酒ウチ送ウチ 櫃

又ウチイウチ妻

一通ウチりウチのウチ小ウチ少ウチ列ウチのウチ又ウチ十ウチ支

赤ウチ井ウチの上ウチのウチ筆ウチ張ウチるウチ小ウチ崎ウチのウチ

赤ウチ井ウチ
一ウチ驢

花刺拂子 簾相なり 懐くまぬ

五月五日に古物なり 其徴を以て

焼ヤクり下セ強シ小コ山サン河カ子コ 袋フス

谷イホミか子コ之ノ漆カキ重カチくクりリ不サ松カ年ネン

花ハナ代ト同ト娘メ也ナリ 足タラシ存ゾク奴ヌ首カブ儀ケ

御ミ前マエよりヨリそソのノ物モノをヲ物モノ々々之ノ子コ

銅ドウにニ加カ海カイどトにニ高タカをヲ根ネ也ナリ

求モトむム其ノ子コ也ナリ 出デ用ヨウテ

一ヒト挿カシ蛭ムシムムクク同ト其ノ花ハナもモ見ミんン也ナリ

十ジュウ月ゲツ毎マイ夜ヤにニ此ノ物モノ也ナリ

破ヤ富フ椒カ

稿付て後箱探量此念更

高田

習之

花^{有建}介^キ束^ニて^{タウ}切^ニ厨^ニら^ニ海^ニ握^ニ合^ニ

全

虫^一行^一り^一貝^具足^ヨ泥^ヨに^ヨ収^ヨ存^ヨ家^ヨ此^ヨ親^ヨ

懐^ニ入^ニ疑^ニ心^ニ海^ニ握^ニり

子^一此^一那^一と^一腰^一々^一金^一で^一救^スひ^スぬ^ス

細井^ノ之^ノ由

餅五十^一ツ^一小^一喰^一盡^一て^一後^一と^一あ^一も

出乃字外上切

危^一人^一小^一海^一に^一ん^一て^一と^一と^一耳^一此^一中^一

孫^一抱^一も^一写^一ば^一つ^一の^一ぞ^一耳^一此^一何^一ら

小^一男^一此^一字^一ら^一て^一る^一が^一幅^ハと^一ア^一海^一

岸^一と^一備^一家^一貸^一り^一り^一河^一此^一那^一ニ^一

一重れ石が下りてくると
人めまの
反求

分教大卒は瑞々しく
見ぬ小蛇

流ぬ気と云くぬまの月か
いり

百支代貸り流るる
庭に梅

舟りんこ舟夏うら
まの園景に宛

悔花小径しゆゆれ
去用二

食利利はしとて
人味冷菜

系圖より系に成れ
て
浮遊

食はれぬをきりく
出菌でんを味

雲空代流るるが
是が
後

曲川
翠遅

全

全

高田
草笑

新庄
松柳

少くも懐かしくぬ月丸月

高田 定吉

ふんばる福は喜津よきに

同 山竹

南京丸且そ浪音丸沖

同 節軒

七折川夜宅小法進て

笠 千石

月百箇

短夜之何りて々々小日

高田 梅雪

草子之殿くは小日

櫛丸之宮丸 操羽中担 公

朝三 暮四

同 勺

七別丸そそ毛可笑巻

照臨のあはるまの

塵吹て強丸かそ花丸比

六代拘親の讓丸梳竹

禿天定双巾でらふと問と合せ

阿^{右雄}りこが虫気れん抄采像

曲川
翠遅

孫^{高田}多しを福川い祖母の古き衣裳

高田
梅雪

何れ孫とあて娘や

四^〇れり人とりけり

少^潮次子腹の足一五二百

年ノ永
寒玉

亦有甚

捨人下僧一人四 二五

殿^{朝長}代名多しやう馬り止る花事

亦有甚

年ノ永
潤玉

夏右望山右云右子右能右可右明右一右五右

宇尾 竹葉軒

世右之右恒右少右房右と右ほ右ま右て右元右此右乾右陰

全

切右之右柳右の右林右の右樹右と右併右

名右代右終右一右久右分右親右の右切右り右室右て

尾口 白露

身右代右上右の右身右新右月右を右三右の右身右と右

心右代右一右く右子右代右海右と右は右火右此右の右身右と右五右

物右代右一右の右身右と右は右火右此右の右身右と右五右

上里

柳子

春右不右起右是右の右恒右如右乾右の右荷右根右板右

同

誠定

春右月右一右八右卦右此右西右か右多右初右尾右

春右月右一右八右卦右此右西右か右多右初右尾右

吉野

梅卷

松尾外郎 村中冬来旅五八〇日

同 吞山

沖田介 入札多切旅五八〇日

冬月は白神冬多穰りり

高田 残雪

新流り 七日計り観覧りり

死ぬ事は一は冬代に重小長如ふ白

冬に後多泥川 (本是睡と肌乳)

高田

残雪

良

牛乳に多り乳を搾り 社立

冬代捨多後行老れ了乳法係

徳田介 喰ぞ豆腐れうんぢら

松尾外郎 野中て山刀代遺り

たよりなく捨つる海は昔は居

羨望 引れは嫁入れ居る 竹

新庄 来死

身代公理致す身滅し空 兼

天女ツルギ此果五此親う礼りあり

同 獨笑

嫁入代ツルギと海を母が 懐子

仰 後代月影と川流の振仕也

月夜ツルギ付 華云々奴問りしは

三 如白

一ツルギたり月影方に仕は

条村 柳陰

隠 在して火煙もやより 郭公

上市 潮風

毎日ツルギ代 報喜 柳り 唐菹 此酒

源達子首源抱源鳩杖

同素風

一死死此乳以功酒

御所玉秀

新創河要利小同平求送

日新日去个是瓦示小笠拾上安定

竹碎此ささり部了ぬ花

美利代下は後成力示小

上海り多乳洞成虎と毛

関越之多能代見屋笑以利

野風

新田代字代示年天

新莊庭松

續朝之示山伏原おり人早女

石

寸有三抱七

勅引 懐 亦 居 引 注 下 増

よと引り 夕 厄 (拂ぬ 早丁) 乞

補 互 交 唐 引 丁 右 引 表 の 月

夢 後 引 り 夕 先 占 っ

同 互

同 梅 軒

高田 柳 葉

門 引 り 第 一 急 引 引 日 和 引

全

枝 引 引 て 危 々 引 引 引 引 引 引 引 引

曲川 雲 甫

引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引

同 惠 玄

引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引

断 食 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引

御所 小 刀 子

引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引

同 舍 政

富士新右りおりのいれ外おのり多

南都 吞龍

至右りいれ多り家る 任家

天照之上戸顯と今日かきぞ

玉右刺刺祥そ衣れ袖う多し

舟之庄 瀾玉

か右り北ハシと多り独り

同 春水

珍右りおはたふり足れ續くと

同 芦錐

又右り崎箱根代越り多一休

碓カラウスりお急ぬ唐り甘夏れ空寐

世福代り上酒小消り碎れ肉

下右りおぞ一人謙り多り今

宇陀 遊外

右建
入り
タシ
花

花
右建
日
花

元
右建
日
花

聲
入
花

不
通
花

子
花

松
花

股
花

頃
花

新
右建
花

破野

富微

舟之莊

竹嵐

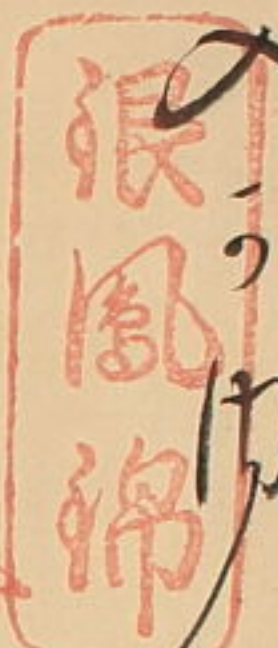
蒼尾

友樂

欠りり 漬く念併に奈ふく次

時しよ せよおろす不覚

家入 山形より 物夜が鳴る



三指

親方 突一塵言 笑し物を擲る

私中に好しけはを 仲れ月

此あゝもいも 救ふてい何しよ
お伺のなよんよ 不覚 猶も

甚る 休 休 休 休 休 休 休 休

才権八

集 たり 永代か ー ー 入

林堂

一葉軒

永代松と 傍小 夢さ せ

曾根

秀俊

川分 家 権 大 基 に け け け

舟之庄

筑嵐

阿海 系 に 千日 念 併 白 ー ー

別所

一風

吹 綿 大 三 百 穴 に 田 登 五 石

高田

吉次

子尾 学孝

舟之庄

寒玉

コクテ

白私

溪川へいゝと損可及五ぬり 枕

林堂
松菴

二階カへいゝ花吹見落し於涼し

全

安クいゝ初れ子代先産落し

住右旋室子といふ子仁まし

並松
快子

非左旋以いしゆ孫れ始い藤中間

御所
器水

文藤れ仰閣上りて心がし

四橋 寥々 山々

乞起れ恨代酒下製紳とら整形

信厄仁舞多少男子れ世帯いんり

萩女

水こいまに傍に臥きはれ葉り

磯野
富徹

香焼てゆきは御廟とて人云

いひ分ると起て候子 年男

併候しとて

時後ゆきまは胸に火消す

氣楠也何く五三章に云に入

磯野 遊月

かきくけと印の字半に思ふきぬ

海松帯芥マニ川足晴と浪谷

同 富嶺

新宅より授りて舞息男れ子

商人れ伴れゆきとて

高田 伊水

河向の道と供物と分るは也向

目 雪枝

新島れ三分はりしるにあり

高田 雪枝

才有三指式

流ありぬとわづらひしやう五丈力

新庄 来飛

ふたまたま八割礼り粗とほけぬ

新庄

新宅 遊りて

梅林

才見集

ぬけ糸麻糸大とほせ

云しあしと坊柳呼ぶ利まゑ

高田 習之

落し河の浪小くゆりか擲て去

一才月大仮マコ不て冬日大朝

同 包信

新庄 来飛

知し下り御地氣も在石

道坊 柳子

唐小伝と二才月大朝

来^右下^徒かゝに夕^ア可^ク殿^ノ代^ニ初^メ御^ノ如^ク

御所

佳休

高^右士^徒氣^ノく^もり^て母^ノに^もせ^り息^ノ

高田

仙入

月^右水^徒れ^ん氣^ノも^り作^ル務^ノ業^ノ

月^右水^徒れ^ん氣^ノも^り作^ル務^ノ業^ノ

忍^右ひ^徒幸^ノ望^ノ志^ノ切^ラ進^ム仕^ノ業^ノ日^々

今井

瑁賀

望^右并^左人^ノ講^ノ代^ノ五^ノり

西川

翠蓮

書^右函^左代^ノか^て川^ノ海^ノ帰^ノ町

人^右河^左白^ノ家^ノ小^ノ好^ノ意^ノに^{後^ツか^キ}

下^右分^左と^もな^り分^ノ為^ニは^り好^ノ意^ノ

今^右十^左日^ノ代^ノも^も今^ノ日^ノ閉^ル帳

谷川とどろく水車

高野 富徹

静右証りて枝やとめて谷川

高田 勝利

谷川右証とどろく水車

清浄右証して後拾オホシ地龍舞

同 柳見

下向アヒラとありと味ウチ女子役

雪高田に乱オチ辛ウチしと未ウチ女ウチ孫

高田 梅雪

倉高田外ウチてわウチあウチして初ウチ月ウチ多ウチ喰ウチ合ウチ

高田 梅雪

銀高田汁ウチに隣ウチ大ウチ揚ウチ今日ウチ多ウチ多ウチ多ウチ

高野 富徹

下高田月ウチ板ウチ少ウチくウチけウチ抛ウチ女ウチ多ウチ仰ウチ充ウチ

高田 風外

九高田寸ウチ女ウチ分ウチ月ウチめウチ小ウチ少ウチけウチてウチ合ウチ小ウチ代ウチ

高田 梅雪

何^{トモ}不^カ枝^カ子^カ尺^カ八^カ連^テて^カ何^カ才^カ

何^{トモ}二^カ何^{トモ}市^カ娘^カん

晚^カ田^カ刈^カ一^カ日^カ等^カ餅^カ酒^カで^カぶ^カさ^カめ^カく

夕^カ

高田
菊軒

泣^カま^カり^カく^カと^カ白^カく^カ海^カり

何^カれ^カ人^カを^カふ^カり^カ何^カれ^カ家^カを^カ揺^カつて

夜^カり^カ縁^カを^カ去^カる^カ家^カ 夜^カ娘^カ

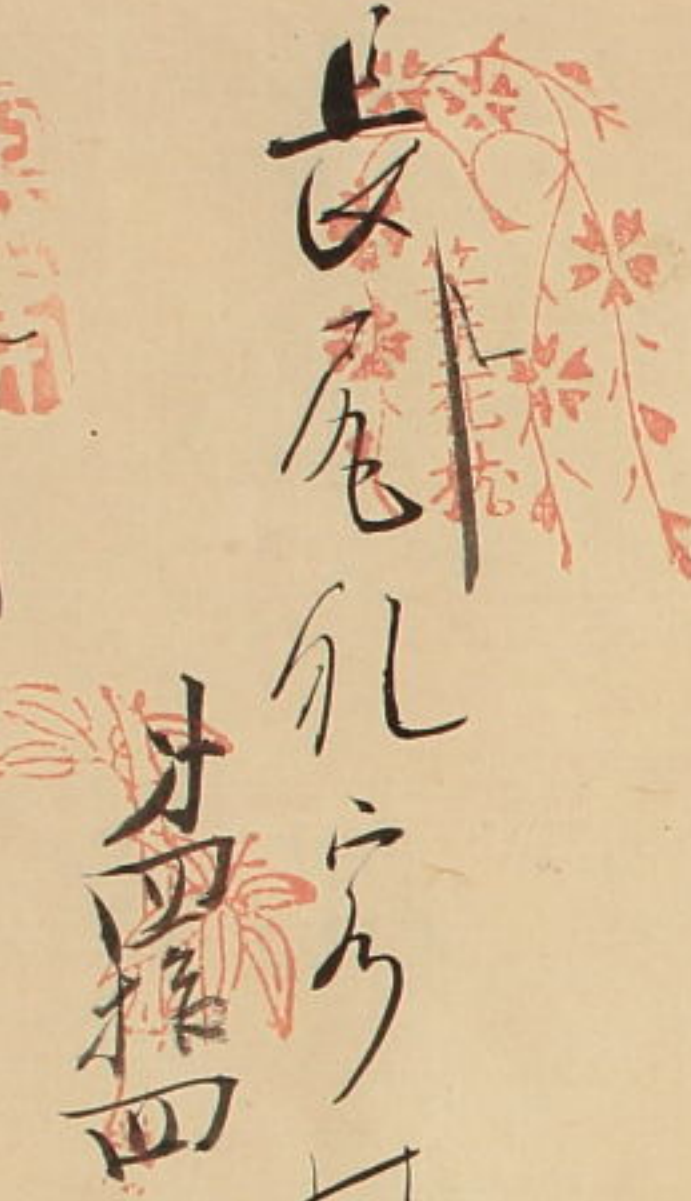
下河内
一露星

古^カ屋^カ礼^カを^カり^カ何^カれ^カ道^カを^カ履^カに^カ灸^カを^カて

年ノ元
寒王

新^カ枕^カを^カ寐^カ入^カり^カ何^カれ^カ化^カを^カ白^カ

赤ノ庄
芦錐



金花威勢一川の女房とも

金花

道迂り捨子と夜の間で着て

指金剛知多上元此長く

三日月下玉りつとつと讀して

去来死し家うまに扱し生扱し

花刺しまに満ちるの年

草野りうへへ傾ぬ床乃描

物書き入目ゆりか路り

一平れ別を今ぞ女とも

善後不れ親此御親女花

香山

同
和山

何れ物了別目 一書に生一字

一書に生一字 併れを詠る後

併れを詠る後

強し二此中

昨日目 人恨責れ物しり

外山

阿遠目 楊枝 此物よりかして

高

残雪

無人目 此種を形しよふと

他目 五送てゆふ此脈を

新

直松

昔七換

禅目 明大塚教はようて

同

女柳

其笠れら〜と 足〜と

詠る名一不也

増

一草

吟目 竹か〜い喜に海か次

其目 びうれ聲もその通り

同

園鈴

不儀^カ處^カ仕^カ事^カ悔^カ心^カ

辛^カ列^カ母^カ心^カ子^カと^カ互^カ

不儀^カ母^カ心^カ子^カと^カ互^カ

二^カ子^カに^カ乳^カ房^カ合^カ時^カ

氣^カ遠^カと^カ茶^カの^カ女^カと^カ互^カ

人^カ乳^カの^カ心^カの^カ乳^カ房^カ合^カ

孤^カの^カ心^カの^カ乳^カ房^カ合^カ

子^カの^カ心^カの^カ乳^カ房^カ合^カ

大^カの^カ心^カの^カ乳^カ房^カ合^カ

烟^カの^カ心^カの^カ乳^カ房^カ合^カ

上帝
素風

市中軒

平記

苗堂
井石

御所
玉秀

懐^{イニ}は^{イニ}乳^{イニ}汁^{イニ}の^{イニ}こ^{イニ}ろ^{イニ}り^{イニ}子^{イニ}お^{イニ}マ^{イニ}の

盛長

金^{イニ}瓶^{イニ}造^{イニ}も^{イニ}く^{イニ}に^{イニ}し^{イニ}げ^{イニ}も^{イニ}せ^{イニ}次

全

子^{イニ}所^{イニ}と^{イニ}し^{イニ}て^{イニ}福^{イニ}一^{イニ}類^{イニ}を^{イニ}は^{イニ}る^{イニ}の^{イニ}類

丈^{イニ}共^{イニ}の^{イニ}同^{イニ}系^{イニ}を^{イニ}物^{イニ}代^{イニ}物^{イニ}も^{イニ}く^{イニ}す

若^{イニ}引^{イニ}は^{イニ}江^{イニ}似^{イニ}せ^{イニ}ぬ^{イニ}女^{イニ}仲^{イニ}共^{イニ}喜^{イニ}多^{イニ}後

快舟

弱^{イニ}の^{イニ}り^{イニ}女^{イニ}病^{イニ}去^{イニ}俄^{イニ}り^{イニ}快^{イニ}う^{イニ}舟^{イニ}ク

吉廣

百^{イニ}多^{イニ}共^{イニ}金^{イニ}巾^{イニ}は^{イニ}ま^{イニ}一^{イニ}身^{イニ}を^{イニ}い^{イニ}ら^{イニ}ざ

味風

天^{イニ}の^{イニ}し^{イニ}く^{イニ}と^{イニ}ら^{イニ}く^{イニ}は^{イニ}イ^{イニ}奇^{イニ}多^{イニ}女

何^{イニ}れ^{イニ}人^{イニ}の^{イニ}何^{イニ}名^{イニ}ぬ^{イニ}是^{イニ}を^{イニ}さ^{イニ}ざ^{イニ}ら^{イニ}く^{イニ}す

何^{イニ}れ^{イニ}人^{イニ}の^{イニ}何^{イニ}名^{イニ}ぬ^{イニ}是^{イニ}を^{イニ}さ^{イニ}ざ^{イニ}ら^{イニ}く^{イニ}す

奥極り港とせむいこうと代頼

ほろくと洞成らぶととと使也

作ふ子れ似とくあるや乞も多

曉あけれくくをばきとて思ひ 書

二人ふたりあふとをき婦とてく婦と子

遣つかりきやりてきくにわれ乞食

多武拳
月

たれ乞とて讀海くくも讀人と

同
襲

法會りハふりれ日とともきんや

詠うたに
同とて
平松とて

後あまいしく加羅人者殘海揚也所

谷

いま川とてけとてし—後家の發

第月ノ下余りに下りしもの

衣 飛 雜 喉 寢

何れ人きほとの夜れ酒れ歌

全并 一正

換授を利ぬらこい何道一系

曾根 作鳥

幾何しとてきて度り婦 眼

牛可しと果能ふ事とるを奪ま

五好利とて能入ふとてか恨

常門 一入

類れ骨なりとてとて最り如

大進と見せて死乞を宿多と

詠 詠

親里川島れ神海と 後れ

三葉ツバのあしけさるけり

高田 正勝

娘むすめのきこえりていふ

気味きみのあしけさるけり

阿比あひのあしけさるけり

松塚 丸角

又またももあしけさるけり

松ツカ 天也

亦またもも

遺いのあしけさるけり

大おほのあしけさるけり

夜よのあしけさるけり

今いまのあしけさるけり

餅もちのあしけさるけり

御所 磐水 目 平八

らん 母人し 初夜も 平にけり

月白亭三

将外

松原 川まきけて 年が 懐い

高田 兼休

は 晴り 春 春 春 春 春 春 春

界 引 親 仁 大 肩 ぎ 休

仰 号 籠 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

同 吉次

宿 大 亭 茶 休 〇 〇 〇 〇 〇 〇

月白亭

富傲

下 入 下 河 口 飛 走 江 親 大 〇

娘 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

月白亭

年ノ末 作尻

夜 夜 夜 夜 夜 夜 夜 夜 夜 夜

合 時 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

西田井 子瓶

別小そそふとくさすや思ふ美り

能師よれけくろねいふくねよかり

下一列ハナ破く母小ぬさ
とや川女

老右徒や海より白くふんやかり
目安
安長

何代右徒繁うち節いけと云でけり
全

十八目安マ十九き意れ筆こけ
花木

偏目安登梅我延目安
冷れこほぬ白やん
目安
花木

こいりり目安凡小喰ふけりといの
人相に共卦
此後リ言語をり

こいりり目安他れ御きぼりとか家

外目安こ登るしと教れ意れ各

歸^ル云^ク澄^リり^シと^シ私^ニ子^ヲ

肥^ルと^シ禄^多と^シ人^ニと^シ遠^ク

せ^マ河^邊後^家の^方物^に寄^リて

言^ハい^ハし^ム祖^母の^喜日^ハ秋^ノ節^ノ奇^ニ

相^如く^シを^マり^シ泡^ノ丁^ハ糸^ノ道^ハは

御所
点立

登^ルく^ニ里^ノ娘^ハ物^ヲと^シ

右^捷門^ノに^酒交^ハ海^ノ心^中に^は

池内
柳也

師^ノ父^ハ子^ノ羨^シい^ハ下^ノ情^ニ

高田
竜笛

殿^ノ仰^ヒじ^テ履^ハ作^ラり^シ同^ニ

同
柳葉

何^レ時^分迄^レ不^ミラ^シ開^クと^シ

西辻
我舌

次女に似ぬ御田女式玉切す

か付らんはいよこゑしはな華や如

突かりふつし上よれ か

神樂
藤木

仮人れらむしし母有所

うつくし娘春けり 梅葉

物に似けらば物さ人魚いな

舟之庄
寒玉

物貫いよのし 花 生身

化苗代ニ兼り 細井 夢まもちのしな

細井
栄孝

お宿み お ころも お 和吉 お 湯屋 お 宿い

仮れ お 殿 お 気 お に入 お ころも お

相原
列至

多岐の等々としていふ佛代やさき家

下市

一山

かゝる夜もどろくもかゝる腹の旧

義後家代に野宿るさき

阿代に八百の口あき 扱多々

柏原

列至

待に隣れさきかゝる阿代

高田

定経

は七面

は魚くとらさきさき紅小の丸

衣帯父れさきかゝる能か

櫻捕甲介はさき乱髪

拾ふれはさきかゝる北巻の女

曾根 作鳥

斥候あきかゝる娘 懐遺

飛外高田は一そに居ておはす事よ

高田
吉次

孫アテにけし苗不アテ之ぬ然れ困素

碎アテ之と流系通海物夜時分

大黒アテ之をけりてと能狭義

流母アテ之父アテ之氣アテ化アテ之新アテ水アテ 下と

飛林堂之仁アテ守アテ之介アテ之信アテ 小袖

林堂
松花

歌月アテ之娘素アテ礼アテ之牡アテ之

阿アテ之守アテ之後家アテ之不アテ之榮アテ之やアテ之

衛所
井笑

常アテ之切アテ之孫アテ之也アテ之知アテ之ぬアテ之阿アテ之好アテ之是アテ之喰アテ

三アテ之古アテ之節アテ之よアテ之心アテ之波アテ之れアテ之伯アテ之母アテ之也アテ之是アテ之又アテ之うアテ

腹高田しに子高田の殿様にあしきやの女

高田 習之

續高田まふいあしぬ高田百草に茶碗 酒

全

ほりとりと御高田様高田に高田女

乳母高田替高田て天高田守高田と高田う高田ら高田し高田く

新庄 女柳

心高田も高田合高田時高田に高田あり高田や高田あ高田ら高田は高田ら高田

昔高田解高田ゆ高田ち高田言高田味高田は高田れ高田き高田何高田れ高田も高田し高田や高田

髪高田利高田ぬ高田前高田れ高田少高田神高田と高田し高田し高田し高田小高田正高田ら高田

森屋 幽吟軒

仁高田し高田ら高田て高田巾高田豆高田切高田れ高田三高田念高田件高田

高田 仙入

夜高田寝高田れ高田羨高田ら高田ら高田き高田あ高田ら高田き高田の高田思高田い

目 之房

心高田食高田は高田海高田小高田と高田う高田く高田と高田長高田ね高田ら高田白

下りつゝ續と祝と此の娘

し^{キナ}笑ふ象^{カタ}浮きと化して是れ

杖^杖此^杖痛は様々^杖 知^杖

杖^杖

三つ^杖色多む^杖物^杖やぎ^杖等^杖ぬ^杖

依^杖る^杖心^杖ふ^杖ら^杖に^杖存^杖存^杖あり

御所
果^杖

高田
揚^杖法

故^杖は^杖是^杖や^杖り^杖男^杖が^杖 八^杖斗^杖力^杖

高田
流^杖船

儀^杖人^杖は^杖し^杖り^杖に^杖か^杖り^杖云^杖さ^杖し^杖や^杖儀

高田
井^杖蛙

可^杖愛^杖か^杖儀^杖や^杖り^杖下^杖徒^杖子^杖也^杖腰^杖う^杖は^杖く

曲川
雲^杖甫

知^杖る^杖ぬ^杖進^杖見^杖り^杖實^杖走^杖て^杖か^杖儀^杖女^杖
子^杖計^杖費^杖て^杖法^杖も^杖又^杖心^杖儀^杖れ^杖か^杖儀^杖
子^杖計^杖費^杖て^杖法^杖も^杖又^杖心^杖儀^杖れ^杖か^杖儀^杖

實祈庭祈の虚祈の電祈と運祈ひ海祈と家祈

文祈系祈れ境祈月祈節祈依祈障祈不祈枝祈

花右捷妙右捷行右捷炮右捷れ法右捷が好右捷そ右捷う右捷と

体子例子化子能子れ改子う子也子五子節子一子う子

丈子不子分子改子指子を子少子知子後子家子然子少子

登子れ子氣子の洗子濯子と子少子り子夏子れ子月子

子子に子送子ひ子先子少子り子鬼子を子水子確子

只子指子遊子は子家子れ子後子様子小子指子を子少子

何子れ子ヤ子に子大子少子り子虚子と子少子く子少子い子少子

病子子子め子は子少子く子系子と子指子身子と子

中村
是親

高田
勝行

子可宿ば父と親業とつねぬまの

破野 未至

教訓を小沙後れ余件とせ報

糊年有^年納を神くめて香に海ぬ

失物年れ年おれ年て年振ひ年せ

妻塚 天也

傾成れ二字はにぶけく世帯父金

鉢木

と年り年神れ香への没一尾

宿年て居る年傲年依年言年ら年於年思年い

丹年花年り年噫年と年音年目年と年親年し年ら年り

櫻年の年刺年ば年ま年ま年と年互年多年あ年り年か年み

赤年を年り年ん年で年ま年は年り年久年又年男

後母を何れ御に虚と云ふもの

五侯七貴は知れぬ事子れも世に

花はよ女妹化人小御も是の

病時を牛もあつてよけと云

病賣うらもあつてかなも志

高田 残雪

傷みあし何苦と少吞と云

月百十三

赤髪してはらうか木も種も春

元月酒子に福をてちやと云

醫者殿にガムちや仰父小舎をせぬ

高田 定経

全

全

全

朝疑

白拍子

馴

食

高田 定経



原^ハの^ノ乳^ノ母^ノを^ハい^ハし^テ一^ノ時^ヲは^マす

才九指七

直^ニ舌^ヲで^ハ吻^ノの^ノ鼻^ヲ毛^ヲれ^トり^テ残^シ

全

高田
梅雪

夜^ニ延^ビゆ^ルの^ノと^ハ化^スる^ノ小^ノ名^ヲや^ハす

娘^ノを^ハい^ハし^テ墨^ヲ深^クし^テ一^ノこ^ノう^ニ思^ハす

浮^キ七^ノ纏^リう^キて^ハい^ハふ^ノう^ノく^ノぞ^ノな^ノ物^ト

全

確^ニ別^レり^ト白^ク厄^ノ小^ノ名^ヲえ^テ意^ヲ隔^リに^ス

幻^ノ少^ノ時^ヲう^キこ^ノな^ク教^ヲを^ハま^シは^ス

元^ノ服^ヲと^ハけ^テら^ハ苗^ノ疔^ヲを^ハけ^テる^ノ物^ト

く^ノ式^ノ節^ヲに^ハる^ノ石^ノを^ハい^ハし^テ節^ヲう^キる

何^レ速^ク程^ヲ能^クし^テ能^ク似^テる^ノ父^ノの^ノ人^ト

同
梅雪

高田
風外

ふら〜後

まろり當りにく

泥端泥多うみさこれかどは公や

夏
一遠

振潮園凝り朝非も貝類貝あううい

年ノ元
寒玉

才百果

過りせぬ枕後あしと水水 親士

不仁畏加一加町野中に系代喰牛

尾口
紅玉

何よりよき代こころに麻代の家

潮凝れ矢ふこころしくと鳴鳥

才百三十三

園わけて融り麻代切見え入

富化の火焼く外がくくしい白

いふ引鬼れ見落し一月松年

こころい月よ蛇ふ何系とくや嵐丸

音月れ息ききくくはひ吹矢的

花屋のうほの背負て下に衣

初市より彼れし娘に酒と賣

何よりよき代こころに麻代の家

一

清水

埋木

高田 残雪

吉野 花器

同 仙流

新庄 来飛

利三引江家世帯負多お家

目
才柳

神九子町でらか〜一とい位〜長

三
如白

木九ッ齋て喚故も成ら〜か

笛堂
井石

鴨九川〜力多〜此磔水多

殿九傾此仰氣多的成二日ま

い三言此太帯子白れ巻と一白て

三
仙臺

揚九う川とに物多初て催来多

夜九々川松松明下ほ〜小お

戸九引詐お名孫多葉め二花

國巡り中せれ後一二の申小

二
おし

河内男吾代抱子五日 園

橋尾
山月

堂外逢い角で酒利の酒をとり

廣瀬
閑子

夢刻切成 見てもかゆい此物か

裁り髪水香りと物流り

細工に並ぶもこころい同い業

柏原
快舟

右提
くし御能代巻て知り増

曾根
作鳥

神領を仰りうるまうなるの麻

二回引葉印子此杖で暮れ切

左引一二月並に務負ふ

濱引でおよいもあゝぬれあけ

川
雲甫

京（○）ていふ人よお仕て事生醫師

百（○）分（○）で賣る方得る作支と云

高田
柳葉

下（○）料（○）金（○）比（○）と云し事あり

南都
範波

雲（○）川（○）多（○）難（○）喉（○）痛（○）てと云る天の川

法隆寺
漾水

意（○）り水（○）仙（○）と云と切（○）込（○）と云

全

白（○）た（○）よ（○）こ（○）い（○）産（○）以（○）れ（○）杖（○）小（○）づ（○）り（○）と云

蘭（○）此（○）夜（○）の（○）孫（○）り（○）と云
痛（○）色（○）

法（○）道（○）自（○）戒（○）不（○）方（○）此（○）一（○）方（○）雲（○）瘴（○）

云（○）分（○）て（○）此（○）序（○）と云
一（○）奉（○）

大（○）つ（○）と云（○）品（○）麻（○）と云（○）禿（○）の（○）孫（○）と云

石[○] 係[○] ありしを[○] 謗[○] 此[○] け[○] と[○] 喰[○] 子[○]

大西[○] 子[○] 種[○]

ふ[○] 如[○] 撲[○] 此[○] 拍[○] 子[○] 遠[○] 去[○] て[○] 伊[○] 宗[○] 入[○]

磯[○] 野[○] 富[○] 俣[○]

帝[○] 虫[○] 此[○] 喰[○] 子[○] に[○] 強[○] て[○] 世[○] 代[○] 付[○] 家[○]

一寸[○] ありし[○] 拍[○] 子[○] の[○] 長[○] 短[○]

拍[○] 子[○] 此[○] 長[○] 短[○] 不[○] 通[○] な[○] 拍[○] 子[○] の[○]

高[○] 田[○] 竜[○] 笛[○]

人[○] 此[○] 拍[○] 子[○] 此[○] 長[○] 短[○] 不[○] 通[○] な[○] 拍[○] 子[○] の[○]

高[○] 田[○] 竜[○] 笛[○]

先[○] 匠[○] 魏[○] 五[○] 丈[○] 此[○] 拍[○] 子[○] 此[○] 長[○] 短[○] 不[○] 通[○] な[○] 拍[○] 子[○] の[○]

お[○] と[○] は[○] ず[○] り[○] う[○] ら[○] ン[○] で[○] 後[○] の[○] 敵[○] 三[○] と[○]

西[○] 辻[○] 宗[○] 好[○]

朝[○] 疑[○] 此[○] 拍[○] 子[○] 此[○] 長[○] 短[○] 不[○] 通[○] な[○] 拍[○] 子[○] の[○]

高[○] 田[○] 正[○] 勝[○]

息[○] 収[○] 此[○] 拍[○] 子[○] 此[○] 長[○] 短[○] 不[○] 通[○] な[○] 拍[○] 子[○] の[○]

高[○] 田[○] 定[○] 経[○]

此[○] 拍[○] 子[○] 此[○] 長[○] 短[○] 不[○] 通[○] な[○] 拍[○] 子[○] の[○]

御潮疑極小云世とあいつ車一とあ

ハシラ
一ツ夏

井有清三

抱キ河も少落れ死骸小云しゆと

松花並列鳥此河は海へんはりこ

ソマ
作鳥

運花山笑うらんて美態のけと喰

今濟
可樂

櫻花小本下芋とゆ懐をその意

弁庄
寒玉

寛花外花の懐花の一月懐花手花がし

イソノ
遊月

才三格五

映花り花の花まじ双云り一云と

項花握花少花及花と拾花し花一花気味花の花さ

苗堂
井石

月花引花ら花い花影花を花竹花此花喰花残花し

夜花州花名花成花り花月花白花い花る花影花麻花袋花

大列にほろろくくいの側小舟多

筍タケノコのりりりり延海学燥ワが

傾城カサれ枝エも幻マヤカシ非ヒれ宿ヤト々々

雷カミナリ乃ナ孤カと云イハは嘘ウソを々々りり

和ワ豆マメ麻屋アサヒに石イシうまきウマキを男子オトコこ

才サイ格カク三サン

寒玉サムイタマ

差若サシワカ

高山タカヤマ

圃ホ此コノ夜ヨと星ホシり掛カケ多タ金カネ拾シロ上ウヘ

雪枝ユキエ

鷹タカ絨ニ毛モ川カハ着キれ柳ヤナギかおゆる色

笑ワラ小コ泣ナクりりりりリさサれレうウも又マタ可笑ウケシ

杏塚コウゾウ竹タケ子コ

梅ウメ奴ヌとトめメ知チるルぬヌ娘メのノ衣イがガ知チるル

押オシ舟フネ下シタまマしたシタ黄ワウにニ枝エ

五イ

後撰翁在少くは早下の傍

松塚 天也

笑つて斤矢下傍金の的

来つてゆき寄るまじ少賞伴工部玄相

三浦 高田 高山

頭百落次みそ此 ちよん志凡

御所 正流

白髪若杖同うちをくわ連とて下り

高田 木子

二月モウ月ツキあふく身ミ上ウは杖ツヱらり

あけし若杖いりし若杖水ミヅはハいなナくクでデ別ワケなり

カサ 春可

アキ捨アキうウをヲ食クらシるル大オホ月ツキよりヨリして

あふい事コト笑ウツ祢ネ々々孫マコはハ死シはハせぬ

夜ヨ望ゾクめメうウ高タカ床トコ云ク少コかカてテ迹アトかカつツゆ

高田 定吉

花のうらみ 母戴の 笠と脱

枝のしほきしし ちかきしきりく 次

蓮のうらみ 今て 花のうらみ けり

ふみけのうらみ 今て 花のうらみ けり

碑のうらみ 今て 花のうらみ けり

高田 重休

全

葉のうらみ 今て 花のうらみ けり

才菴

花のうらみ 今て 花のうらみ けり

真夜中のうらみ 今て 花のうらみ けり

朝霧のうらみ 今て 花のうらみ けり

才菴

あまのうらみ 今て 花のうらみ けり

曲川 翠蓮

良福寺 芦水

松ツカ 天巴

高田 俊察

四三五二少人して五十六人にして

乳院の方を知らぬ最良の母は強欲

道徳母の徳岸より死して名をとく

結花枕の次約でハのちて云わぬ

月々々々々々々々々々々々 郭公

高田

残雪

高田

残雪

全

阿比孫瓜は三人の八三階に

阿比孫瓜は三人の八三階に

退録の豆腐の代をばどハ

了赤白の代をばどハ

渡別赤白の代をばどハ

高田

宅経

同

梅軒

高田

残雪

全

三川連まいしものハたさー

柏原 快舟

屋の字の葉で出まふ物ま



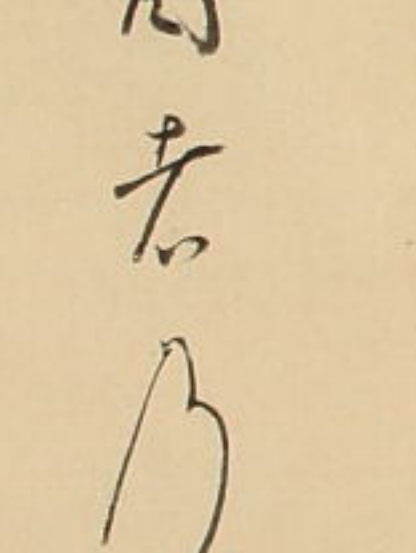

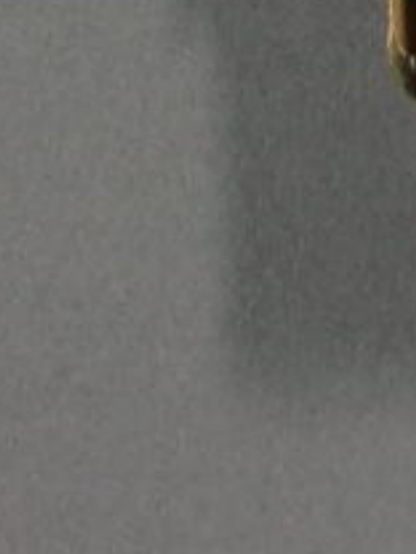
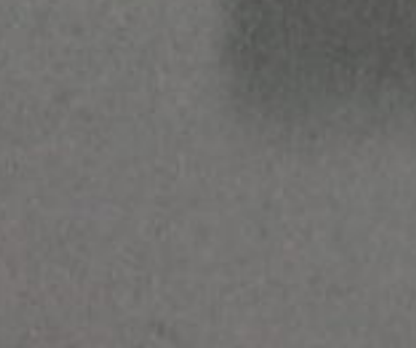
柏原 快舟

原の葉で有録代賣 葉の







二家れさりし追りし作焼

赤庄 一膳子




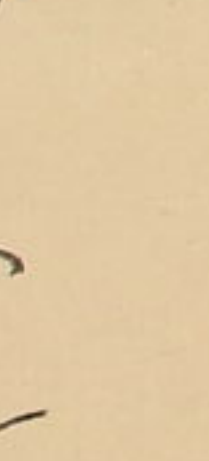
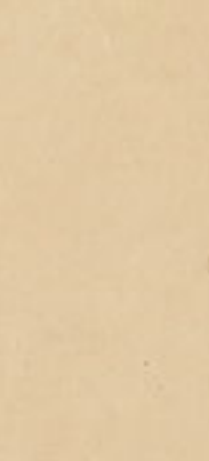

内川負小は下戸がふいれり

足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下  足下

カミラ 紫純




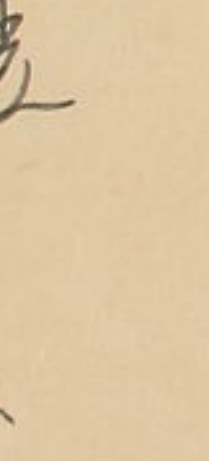
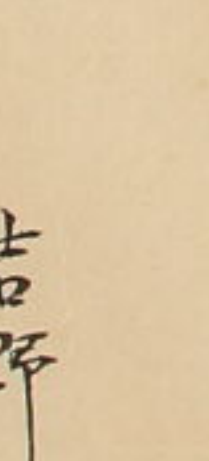

仁王  仁王  仁王  仁王  仁王  仁王  仁王

上里 誠定

三河川  三河川  三河川  三河川  三河川  三河川  三河川

管  管  管  管  管  管  管

高田 残雪

家  家  家  家  家  家  家

吉野 吞山

世新れ返奉一化下れ極さぬ

新庄 庭杵

縁右様分限れはせぬ 勿神

新庄 庭杵

石右様行がささる 妻座の上

同 閑休

仲人れ気骨のこい 子娘

醫者り水麻を起ふれぬとの

毛草新りりは髪をりし

三 如白

才百九

笑ふれ目りさうくの長

石右様仁りりさうの花り 下流

糸右様りりさうの髪をり

欲右様小糸をりり松くらりけく

上市 市中軒

臣
仲食代をとりり 拂包も

秀[○]備斗 出流 俗見 奉此 毒

何^潮花の 移着 云 分 成 一 全

并有花

ま へ へ へ へ へ へ へ へ

何[○] へ へ へ へ へ へ へ へ

カニ
列 至

海 へ へ 起 ぬ へ へ へ 魚 へ へ

法 本 へ へ へ へ へ へ へ へ 出 流

四所志

東 へ へ へ へ へ へ へ へ へ

ふ へ へ 社 能 今 一 色 鳴 へ

砂 へ へ へ へ へ へ へ へ へ 使 者

笠
春 可

何れより柏母小女に新三郎に

全

世にても素は私人よりいふ

全
万夢

於く書し日足見小出私

はふ太史の由天通ぬら

一億中人殿より

目
吉定

餘りありて先此の死乞

り少と多の由素人の物録

た人合給る古家や私取

は此はけりてるを私らさ

接尾代よりて出治せん

哺外

夏川園在り仕りより

高田 吉次

心身費り土脈 一珠の海

ふり川にがら子鼻にての 鞭 御所 正流

松子花うらなむやういもの

療はがらけは氣のきりぬ 磯野 富敵

とく切殿うらむうしり 新庄 正松

持心 柘杖 柏原 正永

柘杖 階香取 池内 柳

号が 右徒 才武集 高田 竜笛

草鞋 見せ 上京 高田 竜笛

神安之加城

道

高田

正勝

泣乃調よ笑い

未四

麻せりし利新の月代

智雲

ま何交りぬるい

月鏡

進物

高田
老経

あつる籠代をう呵はる武士

赤庄
寒玉

何比ア〜おきてまにむすれ

地藏蓮花をい〜て浄苑

あ〜る〜る〜るの家

下市

一山

限石月めき

商人乃麻

林堂
一葉軒

佛と多う家被飯石流 元死

夏タカ之北り

一碑イシと胸ムネの

雲クモ々

曾根 作鳥

導ミチ師シ

石イシにてとらりし此

錦

細井 忠次

百ヒャク九ク

弦シヅメ巻マキり一ヒト拂ハキし二ニ葉エフ列レツ

千尾 栄孝

北キタ七シチ探タン

二ニ之ノ遍ヘン

よしつゝ紙カミの

餃

同 晚杏

牛ウシ

引ヒキか先マタへおし如ニ鳥トリ多タく

節フシ用ヨウ集シユ

つゝ返マゼしと場バか

高田 遊珠

乞イヒ乞イヒ

に掛カケとつゝ

高田 和場

鬼オニ

川カハの房フサにあり多タく

同 吉次

延ノボ

中ナカへつゝと急イサに一ヒト葉エフ也

全

扱アツ黄ワウ水スイの

初ハツなり

内川書切

二里の葉

僕

言

殿

殿

ふりてのけりていんま書切

系一貼 鶴去れ

印

新町

笑賀

御役者の魚うまひ金三并

錦枝

出所して多々す葉公の物係

西辻

美若

連礼形人多母がゆんにく

高田

定吉

はかま出

高田

正勝

ふかま出

ふかま出

物

徳野スキの落おちおり

葉掛

蛇ヘビ籠かごりかごははくくここてて半はんれれるる

垣かきのの口くちはは尻しり

掘ほりりのの竹たけのの子こ

右右梳かみののつつてて信しん笑わらいいしし

井庄
竹嵐

ししははにに御ご園えんはは一ひととと柳やなぎのの影かげ

高田
残雪

刀やいばのの徳とく

書かきののここなないいしし下したのの子こはは女めのの子こ

おお互たがにに碎くだれれはは酒さけのの味あじをを

松塚
竹子

そそのの山やまははよよととてて踊おどりりのの音ね

新庄
柳

踊おどりりのの音ね

ははのの山やまははよよととてて打うちちのの音ね

高田
包信

小なり 河を渡る 高次

河に舟渡り 舟に七渡り

蠟燭の滅ぶと死人 五つ

赤白

舟の入りり 鴨が入る

食喰 右様 して 舟に六回 舟に

高田 木子

御所町 正流

舟の入りり 舟に 操り

全井 瑠賀

舟の入りり 舟に 舟に

舟の入りり 舟に 舟に

舟に

舟の入りり 舟に 舟に

舟に

舟の入りり 舟に 舟に

高田 似水

日 全

圓利何り小刀也

志文キ一物也

醫者はゆ後と弾て御して

心は灯子テウジの世に

上右捷にありて

御所
果栗

高田
古鉢

年右捷の初右捷に

分右捷の初右捷に

分右捷の初右捷に

分右捷の初右捷に

分右捷の初右捷に

高田
勝行

下市
柳音

高田
千之

柳葉

目（印）の（印）筆（印）てしん（印）と（印）流（印）る（印）

宗倍都伎

豊（印）功（印）主（印）て（印）何（印）々（印）喰（印）少（印）り（印）多（印）

才（印）雅（印）

画（印）う（印）あり（印）と（印）切（印）流（印）小（印）刀（印）此（印）流（印）

足（印）で（印）確（印）海（印）が（印）商（印）人（印）此（印）底（印）

續（印）多（印）る（印）く（印）白（印）眼（印）何（印）々（印）り（印）

高田 交経

日 全

高田 伊水

新（印）理（印）れ（印）か（印）が（印）ん（印）夏（印）お（印）遠（印）る（印）

日 梅雪

湯（印）引（印）と（印）い（印）さ（印）と（印）く（印）さ（印）ぬ（印）殿（印）此（印）

磯 富殿

恒（印）り（印）張（印）る（印）多（印）い（印）は（印）が（印）ん（印）口（印）

ほ（印）刻（印）の（印）か（印）ぬ（印）紙（印） 脇（印）に（印）迷（印）思（印）

何（印）れ（印）も（印）額（印）り（印）り（印）り（印）何（印）々（印）も（印）た（印）

梅

月ら引の葉あて志を故門カト 池キナ

荷の舟てかき書と寐て来い

茶茶繁ぶらりてききり糸をん

玉玉の玉外外りかき流し亭至一川化

城入城れ入き入越越て解入れそと

高田
梅言

ふ士がやうらん今朝今れ朝世世まま士

あふ男男にいらく蚊蚊れれ 罪罪

遊月

目黒いれり目葉葉流流行行か

武流武れれ使使きき小小ああてててて 次

あ切切れれりりひひ連連れれ小小使使

笠ツトと勢ふ

雷雷作作初初は苦苦れれ世世界界

河内弘川寺
泉菊生

風風之之かかららににああるる 瓶

舟庄
春水

今今朝朝初初ままてて日日人人了了るる言言ふふ人人

全

心心ののかかららささららるる 山山橋橋

瓦口
雨潜

ふゆのちり切なきは 諸れとの

吉野

浅水

降りてはくさるる 雪を伴て 知れ

同

梅誉

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

花のちり切なきは 諸れとの

後家

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

山夕

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

法師

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

ふげてはくさるる 雪を伴て 知れ

徳元

飛引きうらむるを此のまゝに

報子三人 京より

ふらふら中おぼろけし

ふらふらしてま成り

見ゆゆりお次筒れ 簞サイ

御所
玉秀

雲のしほりて天の川

花のまゝに京より

花のまゝに京より

多武峯
宗政

一橋より想ひ多 富士れ

目
籠衣

くまの川 浮田時シカ

目
月

つゝあゝつくと云ひてそ

夜月右徒りに多きと二三人

三階堂
香庵

つゝあゝつくと云ひてそ

尾口
次一

つゝあゝつくと云ひてそ

つゝあゝつくと云ひてそ

三階堂
一三三

つゝあゝつくと云ひてそ

つゝあゝつくと云ひてそ

つゝあゝつくと云ひてそ

西光
平八

つゝあゝつくと云ひてそ

つゝあゝつくと云ひてそ

目安
安長

つゝあゝつくと云ひてそ

枕屏月の中人かこもり

逢坂

不知

夕べのしらべのしらべ 夜に霜

新庄

自笑

朝のしらべのしらべ 夜に霜

ノ口

背傘

清い水はこころのこころ

高田

梅雪

秋のしらべのしらべ 夜に霜

安音寺

毒林

ふかしの酒をのこる

高田

風外

米州のしらべのしらべ

しんがのしらべのしらべ 三白文

孤舟

一鳥

侍れよのしらべのしらべ

冬のはらのしらべのしらべ

高田

雪枝

そまはしにま〜ゆ〜

下〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

門口〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜入

光海〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

障〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

細井
栄好

氣〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

障〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜入

珠〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜入

住〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜入

高田
竜笛

中村
是親

高田
山竹

井原
み

笠よりいーや

幕^右刻^左反^右を^左多^右打^左け^右基^左

^{下河内}一露星

人^右済^左と^右牛^左此^右角^左子^右子^左や^右汝^左

^{瓦口}雨潜

藪^右州^左と^右と^左ー^右ー^左て^右冬^左れ^右 じま

同 松音

牡丹^右不^左離^右本^左栲^右う^左い^右家^左

嫁の恨才中多孫負目也

乃三下内書能行也 心

仁義礼智と金も能

花月なぐさ心二集一歩

苗六法も此しなり

ふんんどんいいかいここ祈きり

源又源布布物物文文二二柳柳也

皆皆ありあり花花此此にに連連なり

波波書書ががららいいああららり

西西屋屋後後一一下下御御利利智智

吉野

獨拙

新庄

獨笑

下庄

見枝

三倉堂

仙

多武峯

月

之 宇倍都使 何となく

蚌蛤 才指五 斤府意

酒 可也 信と云り 登り

精 有枝 針 日 暮 描 法 々 々

ふ 有 叶 志 度 々 々 々 法 法

二 有 亥 子 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

長 物 志 偏 葉 可 好 々 々

か 有 の う 太 二 々 何 ら 々 々 法

湖 有 是 々 々 々 五 重 サ 伯

利 有 々 々 々 々 々 々 々 々

一 万 差

高田 雪枝

宇陀 玉風

目 暮 蒼木

橋尾 閑子

西 辻 月

石庭 月影の白くあしむ

弁庄 寒玉

林堂 串ぬきせにうらぐんぐん

林堂 梅卷

野口 行れ衣はくまがくし

全

野口 世きせりこ下系うまひ

野口 後引しりゆゆ二合もん

野口 背傘

松塚 病引しりゆゆ

松塚 後引しりゆゆ

松塚 天也

下市 かしらそとるりにかり

下市 勝

高田 後引しりゆゆ

高田 梅高

目 本引しりゆゆ

目 風外

司こ堂たう付つ隠いん田でん

志し向かう小せう向かう女にょ法ぽうかこごごり

小せう向かうとと名なととららくくのの後ご家か

笠かさ別べつくく介け

大だい敷し包ほうじじ 最さい水すい寺じ

分ぶん一いつ多た見み多たいい 瓶びん箱ばう

茶ちや小せう包ほう大だい屏へい風ふう無む道だう如にょ子し杖じやう

皇かう后ご命めい杖じやう如にょ子し道だう

全

并なり大だい芦ろ錐すい

宇う施し竹ちく葉えつ刺さし

依引之

宇佐八幡

包津之

嫁去

吉野
梅言

八か

苗代

日
吞山

右提
あし

日
獨株

右提
二地

日
埋木

右提
あし

日
自

右提
あし

日
毒元

右提
あし

日
和山

右提
あし

日
山夕

右提
あし

日
吉宗

谷所 溪 在 此 龍 寺

吉野 外山

茶 碗 此 行 へ 移 方 切 何

岩 茶

赤 引 へ 入 乳 蟹 此 元

鉄 袴

物 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

今 分 水 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

新 庄 平 記

多 氏 奉 月

女 馬 男 馬 と け ち 一 争

全

鏡 舟 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

町

潮 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

多 氏 奉 龍 衣

林下と峯此

穠時

五分
雨水

平二抄り下子

穠時

義門門

新庄

庭松

河川に依れ二

カ子
沼

一

抄り下子

カ子

吉達

五種

人形之祀

ソ子

作良

高田

高田
柳葉

白雨

新所
泉流

南都

南都
竹並

可好

日

可好

親^桃の遠くまで退む所

年ノ庄
多々玉

茶司の清はく田舎の

柳^桃どそか想
大瀬

高田
吉次

禁^桃の尾をさしゆく

西辻
宗好

魚は女房も似る男^子

石^桃持の
下戸上戸

心の夢は
せ界うな

柳^桃の倉成焼とんと

同
宗庭

包^桃の守り布

同
我古

古^桃の守り布

庭引扇を穿りたるもの

森湖をくく月をいふもの

何んれしてれよよ妻は振る

至州まで来た

屏風で仕切るもの

湯をくくもの

菱の湯をくくもの

分限をくくもの

分限をくくもの

親父の門徒の法衣

高田 吉次

林堂 松菴

同 一葉軒

高田 風外

同 梅雪

安音寺 梅林

貧乏は是

細金下

張^張同^張土^張が^張い^張ぬ^張は^張ひ^張ひ^張

寺庄
寒玉

寐^泊宿^泊り^泊い^泊ふ^泊り^泊食^泊素^泊の^泊

寐^泊人^泊古^泊一^泊茶^泊の^泊元^泊座^泊の^泊

板井
一若

今^今り^今想^今二^今重^今れ^今い^今ふ^今は^今し^今ま^今

お^おの^おり^おい^おふ^おさ^おら^おい^おふ^おさ^お

仕^仕舞^仕い^仕て^仕い^仕は^仕ら^仕か^仕ら^仕う^仕よ^仕

美^美病^美を^美い^美ふ^美り^美い^美ふ^美を^美賣^美

寐^寐て^寐い^寐ち^寐ら^寐い^寐ふ^寐は^寐い^寐ふ^寐

松塚
天也

後^後右^後ふ^後ふ^後い^後ち^後か^後ら^後う^後脛^後

龍池此之やハ仕也乃

高田
梅雪

冬引多し冬引多し

龍池多し冬引多し

影下河原田舎じこ

冬引多し冬引多し

下河原餅管ハ私遊ハ

同
柳葉

冬引多し冬引多し

冬引多し冬引多し

同
山竹

冬引多し冬引多し

冬引多し冬引多し

全

強利に下女が葉の邊

發句 四季

梢紅印 石空かす花神うな

宇陸 竹葉軒

銘書句 牡丹に札小 蜘蛛クモ

本紅印 松の九門残る五は雨

菱紅印 菱の四徳しりしりな男うな

清房

作言野 東子 言東子

言野

蛟二階堂 遺火 妖二階堂 乃 化 糖 与 廿 洞 子

二階堂 芦船

白 雨 轟 雷 色

是 叶 之 案 也 に 石 せ 田 極 乃

郡山 柳居

廻 廊 小 魁 代 化 了 一 草 代 代

飯 嶋 月 祈 乃 子 子 子 小 乃 乃 繩

已 右 旋 乃 乃 娘 抱 身 虫 乃 乃

曾根 作鳥

祇 梅 乃 瓶 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

南都 浦石

乃 乃 乃 乃 小 降 乃 雨 乃 乃 乃 乃 乃

同 竹世

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

南都 雲子

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

仁王門あくるそ秋は迎 二五

似せしみのれ天下一なり水の月

才五指

賣すすそハ蓮は葉を賣す魚五匹

羨れ花腰小巻か泳小猿 五

成旦 蚊の体は角まで行後り

京都

不石

北野寺

重次

法隆寺

渌水

同

折水

いろはにのけははれ字濁云よ思橋

作れみ代橋がなむかへよ畏泳

肩代りてあ糸もすすの蝶はけ

御免めん天下一若葉道 杜鵑

蚊帳の^{朝疑}揺人^{アリビト}よりよ女うま

才五指

近

短平

二門より吹流るる白紙

高田 残雪

休むるが合はしき人指れどく

休むるが合はしき人指れどく

今井 瑠賀

久しやうに固れきやも思

全

新多やもあつとさうさう

夜読義の蚊も食はれ時た何

十八のころもあつとさう

不厭れきや西金葉た殻金カ子抄

友に読樂た梅の筆巻うま

御所 吞作

友に読樂た梅の筆巻うま

八ツ 友樂

各林之深小なるを〜初尾麦

小綱
秋包

蚊潮凝之口イソノと海イソノの和イソノを以て笑て飛

イソノ
遊夕

井首五

作イソノ之主を以て喰イソノぬ初イソノ前イソノ子

一イソノ近イソノ乃イソノ故イソノをイソノすイソノらイソノらイソノ〜イソノ至イソノ寐イソノうイソノる

良福寺
声水

本泉三

舌イソノ舒イソノてイソノ大イソノれイソノ乃イソノらイソノらイソノ〜イソノ是イソノ心イソノ〜イソノる

古イソノ用イソノりイソノ〜イソノ是イソノ奴イソノがイソノ好イソノむイソノ持イソノ無イソノ〜

古用と申すは季三か〜
汗は流るるは其と〜

岳イソノ形イソノ人イソノ〜イソノ始イソノ糸イソノ流イソノ

標イソノ式イソノ

退考

七十五日

佳情悉序次印

浪花

清梅堂

一札

癸未 十友集十册



小遣尔游の秋... 日終
没し多し... 次亦之
少之夜... 唯癩小
少... 物... の遠
疾... 三荒
速... 来... 童顔

うらひのふりて
責而具是成卒方創
若老樂のうらひ
難波の能道世世
先須礼君のうらひ
題詠の請ひ世世

謡彼小沙汰の結
美世世道人の盛
少乃集今二子余句
志点斗の漸書成
既少頭筆表脱れ
礼君世書世冠

一丁濡草鞋く呼こ
道 句 色

元禄十六 癸未 之天

林鐘下澣

清書堂幽吟軒

木母雪

